

ハンセン病療養所はいま・・・

多磨全生園（東京都）は、第二次世界大戦後も高さ3メートルほどのヒラギの生垣が敷地の周囲をびっしりと取り巻いていました。今はこの生垣も低く刈り込まれ、視界をさえぎるものはなくなりました。

長島愛生園と邑久光明園（岡山県）がある瀬戸内海に浮かぶ「長島」の西の端と本州を隔てる狭い海峡は、わずか30メートルの距離もあります。しかし、本州との間に邑久長島大橋が架けられたのは、長島愛生園が設置された1930（昭和5）年から実に58年後の1988（昭和63）年のことでした。この橋は、隔離政策のさまざまな意味を問い直す象徴的な存在になったので、「人間回復の橋」と呼ばれています。

入所者が高齢化した今、療養所を今後どう活用していくかの模索が続いています。

国立ハンセン病資料館

多磨全生園の敷地に隣接する国立ハンセン病資料館は、かつての高松宮記念ハンセン病資料館を拡充した施設で、ハンセン病に関する記録や資料が多く集められ、一般に公開されています。また、資料館と隣り合う国立感染症研究所ハンセン病研究センターでは、ハンセン病についての学術的な研究がおこなわれています。その他の療養所にも、たどってきた歴史を伝えるための案内板や、入所者の人たちや関係者の文学碑や顕彰碑などがたてられているところもあります。

心の叫びを伝える文学

ハンセン病療養所の入所者や社会復帰した人たちの中には、自らの苦悩を芸術に結晶させる文芸活動をおこなった人達も多く、文学賞受賞作品もうまれています。小説家では、北條民雄や宮島俊夫、冬敏之、島比呂志、歌人の島田尺草、明石海人、伊藤保、津田治子、金夏日、俳人では村越化石、詩人では志樹逸馬、塔和子、香山末子など、数多くの人たちがいます。



東京都東村山市にある「国立ハンセン病資料館」
（日本財団HPより）

なごみ

第278号

2025年5月1日発行

編集・発行

和東町人権啓発課

（人権ふれあいセンター内）

TEL 0774-78-3488

FAX 0774-78-3212



みんなで築こう 人権のまちづくり



ふれあいセンターの職員が変わりました

令和7年4月1日付けの人事異動により、和束町人権ふれあいセンターの職員が変わりました。
今年度は、右記の職員でセンターを運営していきますのでよろしくお願いします。



●センター所長
いまにし 今西 靖 NEW

●センター職員
おかだ 岡田 佳子
おかだ 岡田 千枝美 NEW

土曜日もセンターを開館しています

祝日を除く、毎週土曜日の午前8時30分～正午もセンターを開館していますので、平日は仕事で各種料金の支払いやし尿汲み取り券を買いに行きたいけど行けない！という方は、ぜひご利用ください。

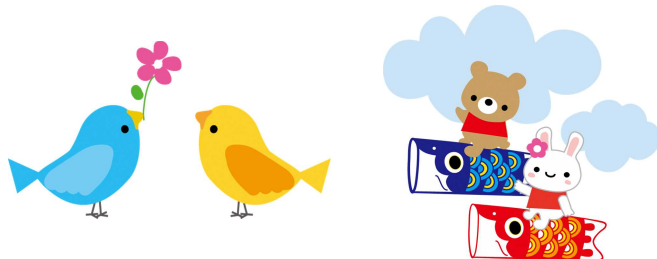
各種教室を開催しています

人権ふれあいセンターでは、健康体操教室、編み物教室、手芸教室、パッチワーク教室など、さまざまな教室を開催しています。
今年度は新たに工作教室、モルック教室の開催も予定しています。
ご興味のある方は、センターまでお気軽にお問い合わせください。

相談事業をおこなっています

人権ふれあいセンターでは、人権相談、生活相談、福祉・健康相談、教育相談など幅広く相談に応じています。
相談内容によっては関連機関と連携をとりながら対応しますので、お気軽にご相談ください。

※相談内容については個人情報保護の観点から秘密厳守でおこないますのでご安心下さい。



ひとりで悩まず、まず相談を！

人権擁護委員が無料・秘密厳守で相談に応じます。悩みや不安を抱える人々の相談を受け、その問題の解決や解消を援助します。
人権にかかわるご相談は、『特設人権相談所』にお越しください。

5月の相談日

月日・・・5月27日(火)
時間・・・午後1時30分～4時
場所・・・人権ふれあいセンター

人権啓発課(人権ふれあいセンター内)でも人権に関わる相談を随時おこなっていますので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ先

和束町人権啓発課
(人権ふれあいセンター)

TEL 0774-78-3488
FAX 0774-78-3212

